



ガさん(写真)の自宅を訪問。なんと2階を教室として開放。彼女は「教育が革命をすすめる」というチャベス大統領の言葉に共感してはじめたことなのだと思います。「帝国主義に堂々と反対し、社会主義をすすめるためには、正しい知識が必要なのです」とも。05年3月、カラカスでは識字率100%の発表。食糧：1ブロックに1カ所ある食糧配給センターで、

地域に住む人が150人分の食事を毎日2回つくり無料で配給。食材は政府が届ける仕組み。飢餓一掃のため、憲法62条にもとづく権利として実施されているそうです。

### 教育省や政府機関との懇談

そのほか、大統領府に招かれての見学、教育省で上院教育委員会議長ペドロ氏との懇談、チャベス政権与党である「第5共和国運動(MVR)」のモラレス国際局長との懇談やベネズエラ共産青年同盟等々、たくさんの人たちと交流・懇談し、被爆写真を手渡したりしてきました。核兵器廃絶署名にも大勢の人が協力してくれました。

8月18日に帰国すると、交流の成果が早くもあらわれ、ベネズエラ国営石油公社や教育省に勤務する青年をはじめ、「日本AALAに入会したい」とか、今後の連帯と交流をよびかけるEメールが、続々と届いています。スペイン語で返事が書けるよう、これからいっそうがんばります！



## わたしからも一言

### 中村あすみ (神奈川AALA)



どこにでも流れる音楽、どこでも踊りだす人なつっこい人たち。日本では考えられない光景や時間の感覚に驚き、まどわされて過ごした10日間でしたが、あたりまえに政治を語りあう青年との交流、世界から集まった若い人にうめつくされたカラカスでの経験は、私にエネルギーをくれました。

山々に連なるバリオに足を踏み入れたことが、ベネズエラの変革をこの目で見て実感する、この旅いちばんの貴重な経験でした。食糧・医療・教育の無償提供が実現され、以前は「排除されていた人たち」の生活のすみずみに援助が行き渡るバリオでは、ひとつの共同体として助け合い、隣の人との交流があり、見た目からは想像できなかった豊かさを感じ、同時に日本の貧しさを感じました。

チャベス政権によって、それ以前の民営化推進路線が逆転し、国民もその政策によって政治を身近に感じ、だからこそ政治に参加して、この政権を守ろうとしている

のが、手にとるようにわかります。ビデオで見ていたものが“実感”に変わりました。参加型民主主義が実際に成立しているのを見て、理想論でなく、「日本でもできる！」という確信をもてたことが、この旅の大きな収穫です。

何度も言われた「Bonita! (可愛いよ)」の言葉や、ポリバル・サークルのゴンサレス君がくれた熱い求愛の言葉も、ほめられて伸びるタイプの私には貴重な経験。あんな熱い言葉は、もう一生、言われないうちかもしれないから、しっかり覚えておこうと思います！

### 筒井琴絵 (愛媛AALA)



オラ(Hola)! ただいま帰りました! この2週間の旅で、本当にみんなにお世話になりました。ありがとうございます。私のバス酔い防止のために、車を途中で止めてくれたり、歌を一緒に歌ってくれてありがとうございます。

ベネズエラの人びとや、今回の祭典に参加している人びとが、自

らのこととして政治を考えているということがわかりました。祭典のときに、みんながひとつになって「チャベス政権は倒れない」と叫んで、自分の思いをちゃんと表現しているようすや、町の中に「投票」という意味の文字がそこかしこにある光景からもわかりました。人びとが、政治は自らの手で変えるものであるのだという思いを持ち、またそのことに確信という自信を持って活動しているということが、お話を聞いてわかりました。

初の海外ということもあり、いかに日本社会が時間に厳格な行動をしているのかということもわかりました。世界の時間感覚は、すごく緩いものであり、時間を気にしないで生活をしているということがわかりました。祭典の規模が大きかったことも影響しているかもしれませんが、こんなに緩くても生活に困らずに、生活ができるものであるのだとわかりました。

短時間でしたが、世界の青年の熱い思いを肌で感じることができました。このような機会をありがとうございました。